

第9章 肉体的武器-靈的地図

クリスチャンが、信仰と実践の唯一の十分な指針としての聖書を放棄し、自分の力と知恵で敵を攻撃しようとするとき、何が起こるのでしょうか？

それは、「靈的地図」と「戦略的レベルの靈的戦い」の実践です。

現代の靈的戦いの神学においては、「領土的な靈」に関わることになっており、それは最も悲惨で危険で破壊的なことを実践しているのです。

この章で取り上げる実践は、「靈的地図作成」、「戦略的レベルの靈的戦い」、「領地靈」、あるいは単に「地図作成」と呼ばれることもあります。

これは、今日の教会で最も急速に成長している伝道方法かもしれません。

この実践は、カリスマ的な教会に限らず、アメリカでも海外の宣教地でも一般的になっています。

ストラテジック・レベル・スピリチュアル・ウォーフェア (SLSW) とは、様々な場所で、その場所にあると思われる悪魔の要塞を打ち破り、取り除くために、とりなしの祈りを行うことです。

SLSWでは、地理的に広範囲に渡る悪魔の階層が存在し、効果的な福音宣教を行うためには、執り成しの祈りと悔い改めによって積極的に打ち勝たなければならないと教えています。

SLSWの実践者によると、福音が効果的に浸透する前に、これらの悪魔に直面し、対決し、束縛し、取り除かなければなりません。

これらの地域的、地理的な悪靈は、「テリトリアル・スピリッツ」（ある領域を治めている靈）と呼ばれています。

領土の靈は、その地域で犯した罪のために、その地域に定着すると考えられています。

ジョン・ドーソンは、「識別的悔い改め」を提唱しています。

これは、その地域に悪靈の足がかりを与えている罪を発見し、その罪を悔い改めることで悪靈の支配を断ち切るという実践です。

「マッピング」とは、地域、国家、都市などに割り当てられた領土の靈の正確な境界を決定する関連する実践である。

これは、悪魔を効果的に祈り、束縛し、祓うためには、悪魔を特定し、名前を付けなければならない

と信じられています。

この方法は、トランスフォーメーションのビデオで有名なジョージ・オーティス・ジュニア氏によって広められました。

オーティスのように、ジョン・ドーソンは、人々を霊的な暗闇に閉じ込めているかもしれない悪魔の力がどのようにブレンドされているかを特定するために、自分の街の歴史を調査するように勧めています。

ジョン・ドーソンとジョージ・オーティスの教えを広めたのは、C. Peter Wagnerです。

ジョン・ドーソンとジョージ・オーティスの教えを広めたのは、1991年から1999年までフラー神学校世界宣教学部で教鞭をとっていたC.ピーター・ワグナーです。

ワグナーが影響力を持っていた結果、その間に何百人もの牧師、指導者、宣教師がこの実践にさらされました。

1980年代初頭のラテンアメリカの都市で行われた一連の福音活動が予想外の成功を収めた時までには、この活動はほとんど知られていませんでした。

この成功が、伝道者たちが暗闇の力と格闘しながら祈りの日々を過ごしたおかげだと考えられています。2)

ムーブメントの誕生 C.ピーター・ワグナーのカリスマ的影響力のおかげで、この教えは広まってきました。

1993年、ワグナーは『Breaking Strongholds In Your City : How to Use Spiritual Mapping to Make Your Prayer More Strategic, Effective and Targeted』（リーガル出版）という本を出版しましたが、その中で彼は、1990年までは「スピリチュアル・マッピング」という言葉を聞いたことがなかったと告白しています。

彼は、それが全く新しい実践であり、「1990年代に聖霊が教会に語っている最も重要なことの一つである」と認めています。

聖霊が2,000年前に言ったことと、現在では違うことを言っている、と信じられると、間違いだらけになってしまいます。

この『重要な実践』と言われているものなしに、教会はどのようにして何百万人もの人々に伝道し、未伝道の人々に浸透し、今日まで生き延びてきたのかと不思議に思います。

SLSWの提唱者によると、ある都市や地域に悪魔の力をもたらした特定の罪が特定されたら、それを

悔い改め、放棄しなければならないとしています。

これらの「霊」を特定することは、多くの場合、祈りの中で聖霊から個別に啓示を受けた結果です。

SLSWの提唱者の中には、地域を支配する悪魔の名前を発見すべきだと教えている人もいます。

ワグナーによると、ラテンアメリカ人のリタ・カベサスは、サタンの階層の最高レベルの名前についてかなりの研究をしています。

ここでは、彼女の研究方法については説明しませんが、最初の段階では、彼女の広範な心理学的／解放の実践と関連しており、後には啓示的な知識の言葉を受け取ることに発展したことを述べておきます。

彼女が発見したのは、サタンの直下には、ダミアン、アスモデオ、メンゲレシュ、アリオス、ベルゼブブ、ノスフェラステウスという6つの世界的な主権者がいるとしています。

それぞれの下には、各国を統括する6人の統治者がいると報告している。

例えば、コスタリカを担当するのは、シーボ、キーボ、アメネオ、メフィストフェレス、ノストラダムス、アザゼル。

例えば、コスタリカには、Shiebo, Quiebo, Ameneo, Mephistopheles, Nostradamus, Azazelが、

アメリカには、Ralphes, Anoritho, Manchester, Apolion, Deviltook, and one unnamedがいます。

SLSWの提唱者は、これらの情報を知ることは、効果的な霊的戦いと福音宣教に不可欠であると教えています。

彼らは、神の民の一致した祈りによって、これらの悪霊を調査し、名前を知って、反対に祈り、束縛し、叱り、追い出すべきだと信じています。

聖書的な裏付けは？

SLSWの支持者の多くは、この教えの裏付けとして、ダニエル10:13と「ペルシャの王子」への言及を挙げています。

この聖句を文脈の中で見てみると、このベールに包まれたわずかな言及は、これらの実践をまったく支持していないことがわかります。

ダニエルは、彼を大いに悩ませるメッセージを与えられました。それは、国が捕囚から帰還したにもかかわらず、大きな争いに巻き込まれることがダニエルに啓示されたのです（10：1）。

ダニエルは非常に悩んだので、3週間断食して祈った（2節）。

3週間後、ダニエルは天使の訪問を受け、次のように啓示された。

「あなたがこのことを理解しようと心に決め、あなたの神の前にへりくだろうとした最初の日から、あなたの言葉は聞かれ、私はあなたの言葉に応えて来た。しかし、ペルシャ王国の王子が21日間、私を妨げていたので、見よ、王子の長の一人であるミカエルが私を助けに来た。」

天使の使者は、ビジョンを説明してダニエルを強化した後、「私がなぜあなたのところに来たのか分かりましたか。しかし、私はペルシャの王子と戦うために戻ることになりました。だから、私は出て行きますが、見よ、ギリシャの王子が来ようとしています。しかし、私は真実の書物に刻まれていることをあなたに伝えます。しかし、あなたの王子ミカエルのほかには、これらの勢力に対して私と一緒にしっかりと立つ者はいません」（ダニエル10:21）。

この箇所は、パウロがエペソ6章で言及している、霊的な領域で繰り広げられる戦いを垣間見ることができます。

これは非常に興味深い聖書の一節であり、そこから次のような結論を導き出すことができます。

第一に、私たちがほとんど気づいていない、非常に現実的な霊的戦いが行われているということです。

第二に、ペルシャとギリシャに割り当てられた悪魔や悪霊がいて、その主な目的は、これらの国に関する神の計画と目的に反対し、これらの国の神の民に反対することでした。

その先は何も語られていません。

今日の国々にも同じタイプの「王子」がいることは知らされていません。”ペルシャやギリシャの王子の名前が何であったかは知らされていません。

今日、他の国の王子の名前がどうなっているのかも知らされていません。

結論としては、ペルシャやギリシャの支配者の背後には、邪悪な霊的な力があったということです。

おそらく、タイアの王（エゼキエル28:11~19）やバビロンの王（イザヤ14:3~21）の背後にサタンの影響があったのと同じでしょう。

ダニエルはこれらの悪霊に対して祈ったのだろうか？

ガブリエルへの抵抗が行われていることを知っていたのだろうか。

ダニエルはこれらの霊を追い落としたり、縛ったり、戒めたり、祓ったりしたのでしょうか。

この戦いには、人間は少しでも関与したのでしょうか？

これらの質問に対する答えは「いいえ」です。

ダニエルは、ペルシャの王子と再戦するために戻ってきたガブリエルのために祈るように頼まれたこともありませんでした（ダニエル10：20-21）。

その戦いは、神が天上の天使たちを通して行われました。ダニエルは、その霊的な争いの現実を全く知らなかったようです。

主はダニエルに、これらの悪霊の名前を明かされませんでした。

勝利のために必要であれば、神が偉大な預言者ダニエルに教えてくれたのではないかと思います。そのような指示や神の啓示はありませんでした。

もし、この箇所が、様々な場所についている悪霊の力に名前をつけて祈ることを教えていないとしたら、何を教えているのでしょうか。

それは、戦いは現実であり、神はそれと戦っておられます。

それは、神の民に敵対し、抵抗し、破滅させようとする本物の悪魔の力があることを教えています。

神の聖なる御使いたちは、最終的には神の力によって神のすべての敵に勝利することを教えています。

さらに、サタンは「この世の神」 [8] であり、政治的支配者や国家を含む全世界がサタンの支配下にあることを教えています。

このようなことは、聖書の他の箇所からも同じ情報を得ることができるので、驚くべきことではありません。

その他の問題

霊的な地図を作成し、領土的な霊に名前を付ける行為には、問題があります。

第一に、聖書には前例や規定がありません。

聖書はこのことについて沈黙しています。

新約聖書を読んでも、使徒やクリスチャンが霊的な地図を作成したという記述を探しても無駄でしょう。

スピリチュアル・マッピングは、1990年頃になってようやく考案されたものです。

そうでなければ、1世紀から教会で行われていたはずで

パウロは、新しい都市に福音を伝える前に、悪魔の名前を挙げたり、都市を霊的にマッピングしたり、識別のための悔い改めをしたりする必要はありませんでした。

もし、使徒がこの原則を知っていたら、彼の試みは成功していたかもしれません。

ジョン・ドーソンやC.ピーター・ワグナーのように、霊的で賢明であったならば。

ピーター・ワグナーのように霊的で賢かったら もし、イエスや使徒たちがこれらの人たちからヒントを得ていたら、どんなことを成し遂げられたか想像してみてください。

。。。聖書の中には、このような馬鹿げたことを裏付ける例や指示は一つもありません。

一つもありません。

第二に、この習慣は完全に人間が作ったものであり、肉的な活動です。

私たちは、この本の冒頭で述べた、霊的戦いの方法を聖書に委ねなければならないという原則に絶えず立ち返っています。

私たちの最高司令官は、この戦いに必要なすべての指示と情報を与えてくれました。

重要な情報を欠いたままにされたことはありません。

私たちは、使徒たちから19世紀後に、疑わしい神学の教師が考案した方法ではなく、主が規定した方法で戦いを行うべきなのです。

真の霊的戦いの武器は、人間が作った肉的なものではなく（2コリント10：3～5）、スピリチュアル・マッピングである。。。。

それこそが、肉的なものであり、完全に人間由来のもので

神が2000年近くもの間、神の民から隠していた慣習を、今日の教会のために明らかにしていると考えられるカリスマ的な教師たちが、おかしな発明をしたのです。

このやり方を採用することは、神が定められた戦いの手段である真理を放棄することです。

それは、核兵器を段ボールの剣と交換することです。

人が作った方法や流行と同じように、スピリチュアル・マッピングもそのうち終わりを迎え、それを推奨する本は出版されなくなり、それを教える教師も姿を消していくでしょう。

残念なことに、別の危険で悲惨な人工的な流行がすぐにそれにとって代わり、真実をめぐる真の戦いから信者を欺き、注意をそらすことになるでしょう。

第三の問題は、霊的な領域の情報を収集する方法に関するものです。

聖書は個々の悪魔の名前について完全に沈黙しているので、この情報は聖書以外の何らかの情報源から得られなければなりません。

この明らかな意味合いを見逃さないでください。

これらの悪魔の名前、階層、地理的配置を知ることが、効果的な霊的戦いと、妨げられずに福音を広めるために不可欠であると言われていています。

しかし、聖書はその情報を明らかにしていません。

それは、聖書について何を物語っているのでしょうか。

それは不十分だということです。

神は、私たちが知るべきことをすべて明らかにされていないのです。

効果的な福音宣教に必要な情報を得るためには、聖書の外に出なければならないのです。

カリスマの世界で、そしてこの実践を支持する人々の間で横行しているのは、このような完全に不十分な聖典観です。

例えば、リタ・カベサスは「サタンの下には6つの世界的な主権があることを知るために、サタンの最上位階層の名前についてかなりの研究をした」とされていますが[10]、ワグナーはその方法について上に引用しました。

ワグナーは、この知識が2つの方法で得られたことを示しています。

1つ目は、「広範な心理学的／解放の実践」[12]であり、2つ目は、「知識の啓示的な言葉を受け取ること」です。

つまり、カベサスは、解放セッション（エクソシズム）で悪魔と直接対話して得た情報もあれば、神から直接啓示を受けて明らかにされた情報もあるということです。

私たちは、悪魔が信頼できる情報を求められたときに、本当に信頼できると思いますか？

レベッカ・ブラウンやマイク・ワーンクの本を読んだことがあります。その中で、悪魔は神の子イエス・キリストの名の下に、真実だけを話すように命じられると、真実を話すように拘束され、義務

を負うと主張しています。

本当ですか？

どうしてそんなことがわかるのでしょうか？

聖書のどこかにそのような節があるのでしょうか？

聖書は、私たちが悪魔の階層についての知識を得るために、悪魔に取り憑かれた人々にインタビューすべきだと教えていますか？

絶対にありません。

それに、暗闇の王子、嘘の父（ヨハネ8：44）から来る情報を本当に信用すべきでしょうか？

クリスチャンは、神学、祈り、霊的戦いの実践を、敵から得た情報に基づいて行うべきではありません。

信頼できないし、求めてもいけないのです。

これは全くのナンセンスです。

霊的地図の提唱者が、この問題について聖書が沈黙していることや、使徒たちがこのような霊的戦いの方法を規定したり実践したりしたことがないことを指摘しても、何の意味もありません。

彼らにとって聖書は、個人的な啓示によって受け取ったものを裏付けるものでしかありません。

「もちろん、聖書には、悪魔の階層を構成する6つの世界的な主権者の名前は書かれていませんが、神が個人的に誰かにそれを啓示したのです。」と言うことでしょうか。

C. ピーター・ワグナーによると、これは

「聖霊が1990年代の教会に言っていること」だそうです。

どうやら、それは1世紀の教会に聖霊が啓示したこととは違うし、過去1900年間に教会に聖霊が啓示してきたこととも違うようです。

これは、情報と啓示の唯一の十分な源としての聖書を放棄したときに得られるものです。

パンドラの箱が開かれ、そこから異常な慣習や異端が無限に出てくるのです。

偽りの教えは、「主は知識の言葉によって、このことを私／私たち／教会に啓示しておられます」と言って正当化されます。

『これは、神が今日、私たちに示されていることです。』

「私たちの世代には、神からの新鮮な言葉があります。」

もちろん、それは聖書が前の世代、前の教会のための古びた言葉であって、私たちにはあまり必要ないということを意味します。

もし、神がこのような本質的な情報を今日の私たちに啓示しているのであれば、実際には、聖書は全く必要ありません。

私はこれを、すべてが無かの問題だと思っています。

この方法では、「クリスチャン」は、より確かな神の言葉（2ペテロ1：19）を喜んで脇に置き、個人的な主観的啓示や悪魔の証言さえも優先します。

彼らはこの方法論によって、聖書は戦いのために私たちに備えるのに十分ではなく、悪魔祓いの際に与えられた悪魔の証言や、神からの個人的な主観的啓示で十分だと断言します。

これは非常に多くの面で悲劇的なことです。

聖書的な霊的戦いの考え方は、聖書を私の個人的な啓示や悪魔の証言の付録として扱うのではなく、戦いを行うための唯一の十分な真理の源として扱うものです。

私たちの最高司令官は、十分な情報を持たずに私たちに放置しているわけではありませんし、戦争の途中で戦闘計画を変更しているわけでもありません。

もし神がこの情報を現代の霊的戦いの「専門家」たちに啓示しているのであれば、私たちはこれを追加の啓示として聖書の後ろに書いておくべきではないでしょうか。

聖書の67番目の本として、それぞれの聖書と一緒に出版されるべきではないでしょうか。

確かに、もしこれが聖霊が今日の教会に語っていることであれば、聖霊が1世紀の教会に語ったことと同じように権威があり、関連性があり、あえて言えば、それ以上のものです。

つまり、教会の健康と成功のためには、これが必要不可欠だということなのです。

第四に、この方法論は、福音の力と権威を低下させます。

これは驚くべきことではありません。

聖書そのものが、個人的な啓示や悪魔の言葉よりも信用できないものとして扱われるのであれば、福音が弱体化するのも当然のことです。

ある都市、ある地域、ある国を伝道する前に、その地域を調査し、悔い改め、統一的に祈らなければならないと言われていました。

サタンの支配を断ち切り、福音の道を開くためには、特定の悪霊の砦や霊、さらには悪霊そのものに対処し、叱責し、祓い清め、投げ落とさなければならないと言われていました。

使徒パウロによれば、そうではありません。

福音そのものが「救いをもたらす神の力」（ローマ1:16)なのです。

福音は助けを必要としません。神は主権者であり、いつでも必要な人を救うことができます。そして、神がご自身の選民を贖うことをサタンが邪魔することはありませぬし、できません。

十字架の説教には神の霊がついており（1テサロニケ1:5）、悪魔の要塞やサタンの活動があっても、魂の救済には力があります。

神が罪人を贖うために必要なことはただ一つ、福音を伝えることです。

だからこそ、パウロはそのために人生を捧げたのです（使徒20:20~24）。

福音を伝えることには、その都市の罪や歴史を調べる必要はありません。

福音を伝えるためには、私たちが「特定の悔い改め」をしたり、霊的な地図を作成したり、祈りの旅をしたり、地域の霊に名前をつけたり、サタンの階層を発見したりする必要はありません。

もし、福音の成功がこのような肉体的な、人間の作った活動に依存するなら、神は使徒を通して聖書の中でそれを明らかにしたでしょう。

福音はわずか30年の間にエルサレム（使徒言行録1章）からローマ帝国の最果ての地（ローマ人への手紙15:17~25）にまで広がりました。

祈りの旅、霊的な地図の作成、悪魔の要塞を通過しての祈りもなく、どうやってこれを成し遂げたのでしょうか？

使徒たちは、コリントやアテネのような、偶像崇拜、悪魔、肉体的、罪深い都市に、世界の6つの主権と、それらの地域を圧迫するために割り当てられているはずの悪魔の名前を特定することなく、どのように教会を建てたのでしょうか。

彼らは、聖霊に力づけられた福音の宣言によって、人々が新しく生まれ変わると信じていました。

福音は人々を新しく生まれ変わらせ、福音の入り口は暗闇の力を打ち破り、サタンの王国から捕虜を解放します（コロサイ1:13-14）。

福音は、その成功のために、人が作った靈的戦いの戦略を実行する必要はありません。

福音は、その成功のために人が作った靈的戦いの戦略を実行する必要はなく、悪魔から情報を得て、それに基づいて祈る必要もありません。

福音の力は、福音を宣べ伝えることによって神の選民に贖いをもたらすという三位一体の意志にあります。

この方法論では、伝道の成功は神の主権と力ではなく、人間の創意工夫と活動に依存することになります。

これでは福音の力が弱まってしまいます。

第五に、これは最後に残しておいたことですが、これは単なる愚かな行為です。

SLSWやスピリチュアル・マッピングの提唱者たちが主張することがすべて真実であると、ちょっとだけ受け入れてみましょう。

サタンは、私たちがバランスを崩さないように、数週間ごとに自分のヒエラルキーを入れ替えると思いませんか？

もし、悪魔の名前と領域を知ること、悪魔の本拠地を破壊することができるのであれば、十分な数の悪魔にインタビューし、十分な数の知識の言葉を受け取った後、悪魔は手下を再配置すると思いませんか？

もし、私が牧師をしているクートナイ市に割り当てられている悪魔が「ルシフェリア」という名前で [14]、この街での伝道の成功が、この悪魔を名指しして特別に祈ることにかかっているとしたら、それがわかった時点で、サタンは隣町のポンデレー市の悪魔にクートナイ市の支配権を与え、ルシフェリアをポンデレー市に再配置してしまうと思いませんか？

そうなると、私たちは振り出しに戻ってしまいます。

彼は永遠に私たちを推測させ、影を追いかけ、動いているターゲットを攻撃しようとするでしょう。

そして、Kootenaiに割り当てられた新しい悪魔の支配者の名前を見つけるために、より多くの悪魔にインタビューし、より多くの知識を得なければならないでしょう。

数分後、彼は再配置され、私たちは最初からやり直すことになります。

もし私たちがこれらの靈的な要塞を特定し、その名前を挙げ、それらを打ち落とし、叱り、祓ったのであれば、神からの優れた知識を得た20年後に、なぜ私たちは何の成果も得られないのでしょうか。

名前が挙げられ、地図に載っている地域は、福音、健全な教義、良い教会で満たされているはずではないでしょうか。

しかし、このような無意味なことが行われた都市の中で、劇的なリバイバルや福音の再生を経験した都市の名前を挙げることはできるでしょうか？

シアトル、サンフランシスコ、マイアミ、ミネアポリスなどは、いまだに邪悪な者の手中にあります。

気晴らし以外の何物でもありません。クリスチャンが何の成果もないことに時間、注意、努力、祈りを集中させるなら、サタンは満足します。

私たちが彼と戦うために、太陽の下で作られた、あらゆる愚かな慣習を利用するならば、彼は喜びます。

クリスチャンが聖書の十分性（真理）に安住し、真理をもって彼の嘘と戦い（2コリント10：3-5）、真理の福音を宣べ伝えない限り、彼の王国は前進することができます。

良かれと思って、しかし騙されたクリスチャンたちは、聖書は十分ではないという彼の嘘を買ってしまったのです。

彼はこのようにして、教会から無限に強力な武器を取り去ったのです。彼は教会を混乱させました。

彼は、無力なゲームや愚かな戦略で兵士たちの気を引いています。

彼らは実戦のような外観を持っていますが、実体は影のようなものです。

それらは幻影であり、気を散らすものです。

唯一の真の戦争-真実の戦争-は続いています。教会は真理を捨て、神秘主義を受け入れています。

私たちの（福音という神の）武器は、人間が作り、人間が考え出した肉体的な武器と交換されています。

神の言葉は、悪魔の証しに取って代わられています。

これが現代の福音主義の悲しい現状であり、その霊的戦いに対する考え方です。

霊的なマッピングや悪魔の名前を挙げることは、その一例に過ぎません。

すべてのことを試し、真実なものをしっかりと握りしめてください。